

アメリカ映画における日本イメージの変遷

金沢 和貴

1914年に早川雪洲がハリウッド映画に出演したことを皮切りに今日まで様々な日本イメージがアメリカ映画に描かれてきた。先行研究においては、特に1980年代アメリカ映画に現れる日本イメージの増加が指摘されており、この時期に「伝統的な日本イメージ」と「新しい日本イメージ」の2種類の異なるイメージがあるとする研究と、「脅威としての日本」という第二次世界大戦期から続く一貫したイメージがあるとする研究が存在する。これら先行研究は、20世紀以前の作品についてなされたものであり、近年のアメリカ映画における日本イメージについての研究は現れていない。

本研究は、最新のアメリカ映画における日本イメージの分析を行い、スクリーンに描かれるアメリカ社会における日本イメージの現状を明らかにすることを目的として、2008年から2016年の間に公開された日本イメージが描かれているアメリカ映画33作品を調査し、考察をおこなった。調査においては、先行研究で指摘された2種類の異なる描かれ方、本研究において新たに確認できた新しい日本の描かれ方について、日本イメージ出現の有無によって、現代のアメリカ映画に描かれる日本イメージの出現数を計測した。

その結果、現在に続く日本イメージ、消失した日本イメージ、新たに出現した日本イメージが明らかになった。本研究の調査対象においては、伝統的な日本イメージの内、差別的な外見のステレオタイプは現れず、外見以外の伝統的な日本イメージについては、男性的な日本イメージに比して女性的な日本イメージが多く現れた。1980年代の「新しい日本イメージ」については、「メカニック・マニア」、「ビジネスマン・日本企業」が多く出現し、他の項目は「伝統的な日本イメージ」と比較すると出現が少ない傾向が見られた。これらのことから、「伝統」、「テクノロジー」、「ビジネス」の国といったイメージが近年のアメリカ映画における主要な日本イメージであると考えられる。また、第二次大戦期と1980年代に一貫して現れていた軍事的・経済的脅威というイメージは、ほとんど現れなかった。一方、アメリカの味方としての日本というイメージが複数現れた。その背景には、日米経済摩擦の鎮静化という社会情勢の変化があると考えられる。また、先行研究では指摘されていなかった、「特殊能力」、「アニメ・マンガ」、「怪獣」、「ゾンビ・霊」といったイメージが、本研究の調査対象では現れており、これらが、アメリカ映画における最新の日本イメージといえる。その他、アメリカ映画における日本人と他人種との恋愛にも、新たな態様が出現しており、近年のアメリカ映画における日本イメージは、「伝統的な日本イメージ」のステレオタイプも部分的に残存しているものの、従来よりも多様化しているといえる。

(指導教員 辻泰明)